

平成22年2月2日

舞台技術・制作担当者様

主催：(財)埼玉県芸術文化振興財団

協力：公共劇場舞台技術者連絡会／劇場等演出空間運用基準協議会

さいたま舞台技術フォーラム

2010 デジタルワイヤレスマイクの現状と今後の動向

レコードがCDに代わり28年、音響卓がアナログからデジタルになって早20年。ワイヤレスマイクにもようやくデジタル化の波がやってきました。初期のアナログワイヤレスマイクは形も大きく、役者の身体に装着すると体温で暖まり周波数が変化し、急に受からなくなったものです。それが、段々と小型化されマルチチャンネル化され、大きいミュージカルなどで30波越えも珍しいことではありません。そこで、商品として実用化されてきているデジタルワイヤレスマイクを実際に使用し、さまざまな実験を行うことにより検証・理解し、次世代の舞台音響設備機器更新の参考にしようと企画しました。

日時 平成22年2月23日(火) 13時30分から

受付開始／13:00

第1部／13:30～「デジタルワイヤレスマイクの解説」

第2部／14:00～「さまざまな使用条件を想定した実験」

第3部／15:50～「デジタルワイヤレスマイクの現状と今後の動向」

閉会／17:00

会場 彩の国さいたま芸術劇場 大ホール

<http://www.saf.or.jp/arthall/guide/access.html>

参加費 無料

申込み FAX : 048-858-5515 ※申込み期限2/20(土)

E-mail : tagami-h@saf.or.jp (広報:田上)

担当者 : 技術支援担当グループ 市川・山海

(TEL:048-858-5501)

さいたま舞台技術フォーラム2010

デジタルワイヤレスマイクの現状と今後の動向

第1部「デジタルワイヤレスマイクの解説」 13:35~14:05

2007年にB型デジタルマイク、2008年にA型デジタルマイクの実用許可が総務省より告示されました。その内容を分かりやすく解説して頂きます。

解説： 上田 博 ヤマハサウンドシステム（株）営業企画部
営業企画マネージャー

松本 純也 ソニー（株）・ソニーイーエムシーエス株式会社 統括課長

第2部「さまざまな使用条件を想定した実験」 14:05~15:35

システムレイテンシーの問題やB帯10波による実験、ワードクロックの必要性やアナログ・デジタル混在による影響の確認など、今後確実に増えていくであろう、デジタルワイヤレスマイクを徹底的に検証します。

パネリスト： 渡邊 邦男 日本舞台音響家協会理事長・新国立劇場技術部音響課長
上田 博 ヤマハサウンドシステム（株）営業企画部
営業企画課マネージャー

第3部「デジタルワイヤレスマイクの現状と今後の動向」

15:50~16:40

実際に運用している劇場第一号、青山劇場の武藤氏や様々な劇場の音響チーフをパネリストに迎え、デジタルワイヤレスマイクの現状と今後の動向について討論をします。

司会進行： 山海 隆弘 （財）埼玉県芸術文化振興財団技術支援グループリーダー
パネリスト： 渡邊 邦男 日本舞台音響家協会理事長・新国立劇場技術部音響課長
武藤 一郎 青山劇場
金子 彰宏 兵庫芸術文化センター
市川 悟 （財）埼玉県芸術文化振興財団技術支援グループ

主催：（財）埼玉県芸術文化振興財団

協力：公共劇場舞台技術者連絡会／劇場等演出空間運用基準協議会